

## 第1回日アラブ経済フォーラム 議長総括（日本語骨子）

2009年12月7日

日アラブ経済フォーラムの閣僚会合が、2009年12月7日、東京において、日本とアラブ連盟の間の「協力覚書」（岡田克也外務大臣、直島正行経済産業大臣及びアムル・ムーサ・アラブ連盟事務総長によって6日に署名されたもの）に基づいて開催された。

### A. 「強固で持続的かつ均衡ある成長」達成に向けて

1. 困難を乗り越え、強固で持続的かつ均衡ある成長を達成するため、国際社会が経済、財政、金融、環境、社会政策面で協調すべき。この点、マクロ経済政策分野における協力に向けた諸イニシアティブを歓迎。

2. 経済関係強化及び強固で持続的かつ均衡ある世界経済の実現に向け、日本とアラブ連盟メンバーの間には更なる協力の可能性あり。そのため、以下の分野で協力を深めることの重要性を認識。

### B. 教育、人的開発、中小企業における雇用創出

3. 日本とアラブ連盟メンバーは、初等教育、製造業におけるキャパシティ・ビルディング、エジプトー日本科学技術大学（E-JUST）の設立等、重層的な協力を推進。これらの分野で更なる協力を進める重要性を認識。

4. アラブ側は中小企業育成の重要性を認識。中小企業分野における意見交換継続の重要性を認識。クウェート、サウジアラビア等アラブ諸国が拠出する基金を含む中小企業発展のための措置について説明があった。

### C. エネルギー、環境、持続可能な開発、水、科学技術

5. 両者は、上下流における石油・天然ガス分野での互恵的な協力を進める決意を表明。

6. 両者は、省エネ新エネ分野における人材開発を、アラブ地域で行う可能性について議論。太陽光分野で日本とアラブ企業が協力する可能性につき一致。

7. 両者は、COP15において成果を収めるべきであるとの認識を共有。両者はまた、経済・社会発展を実現させつつ、温室効果ガス排出を顕著に減少させるためのクリーン・エネルギー技術分野における協力について議論。

8. アラブ側は、水環境改善のための、日本の継続的な努力、特に統合水資源管理促進（IWRM）、淡水化、下水処理のための支援を評価。日本側とアラブ側はこの分野における相互協力の重要性を認識。「水政策対話」、ビジネス・ミッション、12月8日に開催される水ビジネス分科会、商談会をはじめ、官民の様々な取組を通じた、関係強化への期待を表明。

#### D. 貿易、投資

9. 両者は、以下を通じて経済関係を発展させる重要性を認識。

- 双方向貿易の増加
- 民間部門における合同プロジェクトの実施の奨励

10. 金融機関はビジネス拡大や日本やアラブ連盟メンバーへの投資促進に重要な役割を果たす。両者は、以下を通じて金融関係を深化させる重要性を認識。

- （日本とアラブ連盟メンバー間の）双方向投資に関する情報交換
- 第三国への投資促進
- 両者の金融業におけるネットワーク構築

#### E. 観光

11. 両者は、近年の観光分野の振興を歓迎。両者は、観光資源の開発に伴い、アラブ連盟メンバーにとって、観光が、多くの雇用を創出するという点で経済振興と社会開発のためのプライオリティの一つであるという認識を共有。両者は日アラブ間の観光分野の振興を支援。

#### F. 今後に向けて

12. 両者は、本フォーラムの枠組みで議論を続ける重要性を再確認。この点、本フォーラムの主要なプログラムの1つとして、2010年と2012年にワークショップや商談会のために、日アラブ間のビジネス会議を開催するという計画に留意。

13. チュニジアが第2回フォーラムのホスト国となることを歓迎。

(了)